

インターバンクの声（2014年8月25日）

イエレン FRB 議長のジャクソンホールでの講演を控えたニューヨーク市場は、議長講演の内容がハト派寄りになることに備えたのか、東京時間の朝方のレベルに比べると若干円高気味のレベルから動き始めた。そもそもジャクソンホールでの経済シンポジウムは、バーナンキ前 FRB 議長がサブプライムローンへの対応に利下げを予告したり、量的緩和第2弾（QE2）をこのシンポジウムの講演の際に匂わせたりしたことから注目されるようになってしまった。特に FRB 議長や欧州中央銀行（ECB）総裁が、必ず金融政策について話すわけではないはずだが、どうしても市場は金融政策に言及する可能性が高いと意識するようになってしまっており、今年もそうした状況は同じだった。その意味では今年のイエレン議長の講演内容は、市場の期待に応えるように労働市場の問題と金融政策という、まさに市場が望んでいた通りのテーマとなった。講演の内容への市場の反応はもっぱら中立的だったとするものが多いが、景気回復によって雇用が増えたとの認識から、来年の利上げを予想する市場の見方を否定するものではなかった。むしろこれからは、利上げの時期をめぐる議論が中心になってくると思われ、地政学リスクや中国リスクが限定的と考えれば一段のドル高を期待しやすくなりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。